

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 19 年 12 月 3 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 45 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームふれやか東藻琴館 (北海道)
評価調査員の氏名	氏名 大矢根 ひろ子 氏名 土田 真澄
事業所側対応者	職名 管理者 氏名 坂矢 優美 ヒアリングを行った 職員数 (2)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	175300367
法人名	有限会社 浜本
事業所名	グループホーム ふれやか東藻琴館
所在地	網走郡大空町東藻琴538番地の4 (電話) 0152-63-5700

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成19年12月3日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 14 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.3 人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	平屋建て	階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	17,760 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	367 円	昼食 367 円
	夕食	367 円	おやつ 52 円
	または1日当たり		1,153 円

(4)利用者の概要(11月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低 76 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大空町東藻琴国民健康保険診療所 ・東藻琴歯科診療所
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは東藻琴市街地より南に位置したのどかな田園地帯の一角に立地している平屋の建物です。リビング、廊下には自然の明るい光が差し込む天窓がついており、建物の特徴の一つとなっています。また、冬場は取り外しされていますが、大きなテーブル椅子が置かれたバルコニーが設置されており、利用者はホールからそのまま出入りができ、お茶を飲んだり時には食事をとるなど楽しいひとときを過ごせる場となっています。また、体調不良等で外出ができない利用者は、バルコニーや芝生へ出て、外気浴をするなど気分転換を兼ねた健康面での支援の一つとしています。敷地内にはビニールハウスが設置されており、利用者の知恵や経験を活かして畑作りを行っており、職員が共に作業をするなどし、楽しみごとの支援につながっています。玄関前のスロープはロードヒーティングになっており、冬場の安全確保がされています。職員は「ゆっくり楽しく笑顔で、できるだけ自分で」を支援の柱とし、利用者はその人らしく元気に暮らしていけるように働きかけています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の権利や義務を文章化し、利用者・家族に説明しています。訪問が難しい家族には文章を送付し、ホームを理解してもらう手立てとしています。 ・利用者の残存能力を活かしてやれるための工夫を凝らし、生活の中で掃除や調理等の手伝いをしてもらうことで利用者の生き甲斐や自信につなげる支援をしています。 <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は職員が割り当てられた項目について記入したものを管理者が一つにまとめています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>初めての運営推進会議を11月に持っています。地域住民の代表、大空町役場職員、その他(知見を有する者)副施設長、管理者のメンバーで構成されています。(家族代表は都合により欠席しています。)ホーム側から理念や利用者の現状、行事および日常生活のケア等について説明がなされ、メンバーからは構成メンバーのあり方や施設への要望等が出されています。検討内容等があり、結論が出た段階で家族へ報告を予定しています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置はされていますが、実際の利用はされていません。家族の訪問時に家族の思いや意見を聞き取る努力をしていますが、直接運営に反映するような段階には至っていません。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>現在町内会には加入しておらず、情報は町の発行する広報誌や近くに居住する運営者から得ています。散歩等で顔見知りになった近所の人たちと挨拶を交わしたり職員の子供が遊びに来るなどで交流しています。また、町の文化祭に利用者の作品を展示してもらい参加もしています。ボランティアの慰問等も積極的に要請し、利用者の楽しみごとの支援としています。</p>
重点項目④	

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念をより地域密着型サービスにつなげるために、新しい理念に作り変えることを検討しています。	<input type="radio"/>	支援の大切な柱である理念を作り変えるに当たり、運営者・管理者や職員ひとりひとりの意見を十分に出し合い、独自の理念を作り上げることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目のつきやすい位置に理念の掲示がされていますが、会議の場で十分話し合う機会がもっていません。	<input type="radio"/>	理念については、職員が同じ認識を持って支援に当たらなければならないため、あらゆる機会を設け、話し合い実践に結びつけていくことを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームから依頼し、初めて町内老人福祉施設の盆踊りに参加し、文化祭にも利用者の作品を展示するなどしています。ボランティアの受け入れも積極的に行い利用者の楽しみにつなげています。	<input type="radio"/>	日常的に自然な形で地域の人々と交流を図るためには、町内会の加入等、積極的な取り組みが必要と思われます。運営者・家族等、必要関係者と話し合うことを期待します。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘を受けた項目については改善がなされています。玄関先に外部評価の結果報告が閲覧できるようになっています。	<input type="radio"/>	運営者・管理者・職員は、外部評価について十分話し合いを行った上で評価に取り組み、サービス向上に活かすことを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	11月に1回目の運営推進会議がもたれています。ホーム側から施設の概要や利用者の状況・行事等について報告がされ、メンバーからは構成メンバーのあり方、ホームへの要望等が出されています。2ヶ月に1度の開催を予定しています。	<input type="radio"/>	地域に理解と信頼を得るための大切な機会として、充実した会議の開催を期待します。また、会議内容について家族への報告も必要と思われます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	空室状況の報告や待機についての確認等、必要に応じ相談・連絡を取り、サービス向上に活かしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、請求書と一緒に金銭管理についての報告とともに、毎月のホーム便り(笑満通信)を送付し、ホームに親しみを持ってもらう工夫としています。訪問時には家族に積極的に声かけをし、意見や思いを聞きとる努力をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はありますが、実際の利用はなく、管理者・職員は家族の訪問時に意見や思いを聞き取る努力をしています。	○	家族の思いや意見を出しやすくする工夫として、家族会の設置などを検討し、ホームと家族が一丸となり利用者の支援に当たることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族の動揺や不安を最少限に抑えるため、残っている職員ができる限りカバーをしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規定の中で研修の確保についてうたわれていますが、職員の人数的な問題もあり、研修に参加しにくい現状にあります。研修があった場合、資料は回覧等で情報の共有等を図っています。	○	研修については、何が必要なのかを見極め、意図的・計画的に参加する工夫を期待します。研修で得た内容については会議等で十分話し合い情報を共有することが必要だと思われます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度初めて、行事を通じて町の老人福祉施設と交流を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得したうえでサービスを開始できるように事前に訪問してもらい、利用者と一緒に食事やおやつをとってもらう他、家族と一緒に宿泊してもらうなどの工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、生活の知恵や技術等を教えてもらい、共に支え合う関係であることを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から希望が出た場合は、できる限り速やかに対応していくとともに、必要な場合は家族と連絡をとり、確認をして支援に当たるよう心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者・職員は利用者の状態の変化等気付いたことをミーティング等で計画作成者に伝え、計画作成者は家族とも話し合い、利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、定期的に見直しを行うとともに、利用者の心身の状態の変化によっては、必要に応じ、利用者の状態にあった介護計画に変更しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院は基本的に家族対応ですが、緊急時の場合はホームが対応しています。また、医師との連携が必要な場合も管理者等が同行する場合があります。今後は状況によってはショートステイの利用も検討しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医や協力医と連絡を密にとり、利用者が適切な医療が受けられるよう支援しています。歯科医については、必要に応じ、往診してもらえる仕組みができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ターミナルに該当する利用者はありません。医療行為が発生するなどの事から、現時点での取り組みは困難であると思われます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録など、書類等の保管には気を配る他、声かけや対応についても十分な配慮をするよう心がけています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのようにすれば利用者ができるのかを検討し、工夫をすることで食事準備や後片付けなどを利用者が積極的に手伝い、生き甲斐につなげています。(滑り止めマットの活用で食器拭きができる。etc)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族の差し入れ等によっては、柔軟にメニューを変更したりしています。皮むきや包丁を使う、または、食後の後片付けなど利用者は自分のできる部分で積極的に関わっています。利用者の健康面を考え素材の大きさや柔らかさ等に配慮しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を優先しますが、給湯の関係で一日入れる利用者の数は決まってしまう。利用者の状況等によって、シャワー浴で対応しなければならない場合は、保温に配慮し一番風呂は避けるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かし、畑仕事の手順等を教えてもらったり、他利用者に触発され、ホームで使う雑巾縫いに取り組む男性利用者もあり、日々の楽しみごとや気晴らしの支援となっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況等によって近所への散歩がされています。また、できない場合にはバルコニーや芝生に出るなどで、外気浴の支援につなげています。	○	冬の間、外出できない利用者の体力的な支援や社会との交流をどのように図っていくかを検討し、今後のサービス向上につなげることを期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しない方針で対応していますが、徘徊等の利用者の状況によって、安全のため施錠が必要になることがあると家族にも説明し、承諾を得ています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと初期消火の対応方法や連絡方法について学んでいます。	○	いつ起こるかわからない災害については、実践を想定した十分な訓練が必要と思われます。利用者はもちろん、地域住民の参加を呼びかけ、避難訓練の実施をし、安全確保につなげることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については記録ノートに記載されています。1日あたり、1500ccの水分摂取を目標とし、ひとりひとりのコップやおわんについて何cc入るかが把握されています。不足と思われる場合は、就寝前に温かい飲み物を勧めるなどして支援につなげています。圧力鍋やミキサーを使う工夫をする他、嚥下の困難な利用者に対してはとろ味材の利用をし、摂取しやすいようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング廊下は、天窓からの自然の光が入り、天気の良い日は特に、明るく暖かい雰囲気が漂っています。廊下の一角に畳仕様のベンチが設置してあり、利用者が歩行につかれた際等休憩したり、他利用者との会話の場所にもなっています。廊下には行事の写真や利用者の作品が飾られ、季節を感じるものとなっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で利用者や家族には馴染みのものを持参するように伝えていきます。利用者の状況によってベッドや布団を使用する他、施設側より電動ベッドの貸し出しを行っています。安全面を配慮し、絨緞使用の場合には、防火用のものを用意するよう働きかけています。		